

学生支援の現場から

◆畿央大学

学生から頼られるキャリアセンターへ

伊藤 誠

(畿央大学キャリアセンター主査)

「今はインターネットでの応募が中心だから、昔のように学生が就職課に通うことはないんですよ？」キャリアセンターに勤務して三年目ですが、何度もこの言葉を耳にしました。大多数の企業が就職サイトを利用して「大学・学部・学科不問」で採用する現在、確かにキャリアセンターや就職課の果たす役割は「大学に送られてきた求人を開示する場所」から大きく変化を求められています。畿央大学はこの春に三期生を輩出したばかりの新しい大学ですが、三年連続で就職希望者の就職率一〇〇%を達成しました。これは、キャリアセンターの利用率がほぼ一〇〇%、ガイダンス出席率も例年九〇%以上を確保していることが要因と考えられます。「いかに学生との距離を縮めるか」というテーマについて、「教職協同」「情報発信」「個別指導」の三つの観点から本学の取り組みを紹介したいと思います。「教職協同」については、教員・教務と連携した全学的な

就職サポートを進めています。キャリアセンターは学科毎に専属の「学科担当」を一名置き、教員による担任と一緒に就職指導をしています。学科担当は月例の学科会議に参加し、企業の採用動向や学生の就職活動状況を共有します。就職相談に來ない学生には教員と一緒に指導に当たるなど、

教員・職員の垣根を越えた学生指導を実現しています。また教務と連携して平日昼間の一コマを「キャリアセンターの時間」として確保し、三年生前期から企業就職希望者対象のキャリアガイダンスを毎週実施しています。ガイダンスで年間二二回顔を合わせるのに加え、秋には全員に個別面談をするなど、就職活動が本格化する前に学科担当と学生が接する機会を多く用意しています。

次に「情報発信」ですが、低学年から就職を身近に感じられるよう就職情報誌の隔週発行、四回生による就職活動体験談のブログ更新などの取り組みをスタートしました。



キャリアセンターの風景



就職情報誌「キャリアプレス」を隔週発行

ぶことを心がけています。そうすることで人間関係が生まれ、相談を重ねていけば信頼関係が育まれます。遠隔地の学生や就職活動で多忙な学生とはメールでも相談に乗っていますが、学生からの受信メールは学科担当一人当たり年間一〇〇〇件を超えます。また各学科担当は求人開拓を兼ねて内

また一斉メールを利用して求人到着情報や各学科担当の出勤状況を流し、学生がキャリアアセンターを利用しやすい環境を構築しています。そして最も力を入れているのが「個別指導」です。規模な大学ならではのことですが、全員の顔と名前を覚えて相談に来た時にすぐ名前と呼



学科担当はガイダンス講師も担当

定先や希望業界を中心に年間二〇〇件の企業・事業所を訪問し、最新の採用動向を踏まえた指導を目指しています。学生と密に接していくのは大変ですが、内定が出たらすぐにメールや電話で報告してくれるので、各学生の活動状況をリアルタイムに把握することが可能です。学生との信頼関係が築かれている結果だと思っています。就職支援のやりがいには、「感謝される仕事」であること。「先生のおかげです」「ありがとうございました」という一言が何よりの励みになり、活力源になります。充実した就職サポートシステム構築の必要性を感じる一方で、「相談された時に有益なアドバイスが出来る自分でいられるか」「何度も相談に来る価値があるか」ということが就職担当として常に大きな課題であると感じます。頼りがいのある社会人の先輩として学生の目に映るよう、今後も試行錯誤を続けていきたいと思っています。



1年間のキャリアガイダンスが終了